

電子書籍アプリ『白門書房』 中央大学の紹介誌が、無料で手に入ります！

『白門書房』は、中央大学が発行する広報誌を集めた、日本の大学初の電子書籍配信アプリです。大学案内誌や学部ガイドブック、大学院・専門職大学院案内、附属学校案内などを、電子ブックの形式でダウンロードできます。

『白門書房』は、iPhone、iPod touch、iPad 向けソフトウェアのダウンロードサービス、App Store（アップストア）からダウンロードします。App Storeへは、無線LAN（Wi-Fi）を通じてどこからでもアクセスできます。

現時点のタイトル数は40以上、今後もどんどん更新します。



『白門書房』アプリについて: <http://itunes.apple.com/jp/app/id413465097>

本学の地球温暖化対策が 都から表彰

CO₂排出量を23%削減

東京都の地球温暖化対策計画書制度の第一次計画が終了し、本学多摩キャンパスが教育機関としては唯一、優秀事業者として表彰されました。

5年間で23%の削減率を達成した取り組みは15項目にわたり、直射日光の当たる窓ガラスの断熱フィルム装着、トイレなど人感センサー導入による節電効果など小さな積み重ねのほか、氷蓄熱を利用した熱源システム（エコアイス）や高効率給湯ボイラーを導入して、電気・ガスの消費量を大幅に削減したことなどが含まれます。

次の5カ年計画もすでに始まっていることに加え、震災による節電もあり、今後も一層の努力をしていきます。

正門付近の駐輪場を整備 1,000台が駐輪可能に

この度、多摩キャンパス正門下に駐輪場を安全・快適に使用できるよう整備しました。通学手段として、自転車の利用者が増えたため、不法駐輪も多く、自転車通学の学生の需要に応えることができないことから、これを解消するため、正門下、通信教育部棟（10号館）に近接する用地に約1,000台が駐輪できるように舗装工を行い、本年4月より供用を開始しました。なお、駐輪場には管理人が常駐し、駐輪に当たってのトラブルが生じないよう指導をしています。



「中央大学出身の作家たち」 第15回中央図書館企画展示、 盛況のうちに終了

図書館では、広報誌『My CUL』（まいくる）の刊行に合わせて企画展示を行っています。本年春季は「中央大学出身の作家たち」をテーマに約2ヶ月間の展示を行いました。

本学初の直木賞作家である和田芳恵の自筆原稿をはじめとして、浅田次郎、逢坂剛、石原八束、志茂田景樹、岸田理生など12名にのぼる本学出身作家の自筆署名入り本、色紙、原稿など普段は「貴重書庫」で眠っている図書・資料を並べ、来館された皆さんに見ていただきました。特に、本年1月に第144回直木賞に輝いた女性作家・木内昇（文学部卒）の受賞作（自筆署名入り本）は多くの皆さんの注目を集めました。



避難訓練を実施

商学部は6月1日、地震に対する避難訓練を多摩キャンパス5号館で実施しました。授業中に震度6弱の地震が発生したと想定、学生・教職員合わせて約800名が訓練に参加しました。

本訓練は、今後発生可能性がある首都圏直下型大地震等に備え、災害時の行動方法を確認し、防災意識を高めるために行ったものです。今後はこの結果を分析し、より確かな避難計画に役立てていきます。



iTunes U で動画配信をスタート

中央大学ではこのたび、大学が制作する番組や動画コンテンツをiPodやiPhone、iPad等で、無料で視聴いただける環境を作りました。

メインコンテンツは、本学が2001年度から制作している教養番組『知の回廊』や本学FLP (Faculty Linkage Program) 受講生が制作する地域情報番組『多摩探検隊』、本学教員の授業を学生が収録・編集する『学びの回廊』(10月以降公開) など多数。その他、大学の見どころや学部・キャンパス紹介、スポーツ特集、大学の歴史や建学の精神を映像化したものなど、現在の総エピソード数は200タイトル弱になります。

今後引き続き、充実した内容の番組を配信しますので、是非ご利用ください。



iTunes は米国Apple Inc.の商標または登録商標です。

中央大学 iTunes U はこちらよりご視聴ください。
<http://itunes.apple.com/jp/institution/chuo-university/id429865852>

Twitter, Facebookで中大ニュースを発信中

広報室では、Twitterからの大学ニュース発信をはじめ、Facebook中央公式ページ、YouTube中大チャンネルを設け、運用を開始しています。

これは今日、多くの学生が使う拡散性の高い情報ツールとして、大学公式Webサイトのみの限定的な情報発信システムを補強し、緊急時における連絡手段の脆弱さへの対策として導入したものです。

TwitterやFacebookユーザーの方であれば、どなたでもご利用いただけます。ぜひ、TwitterやFacebookから中大ニュースのフォローを！

Twitter: Chuo_PR(中央大学広報室)
twitter.com/Chuo_PR
Facebook: 中央大学 (Chuo University)
facebook.com/ChuoUniversity
YouTube: 中央大学チャンネル
youtube.com/ChuoUniversity



中大公式エンブレム

現在、本学で使われているロゴマーク等ブランドマークには横長のデザインが多く、従来より、海外向けにも使用でき、格調が高く、どんな場所でも使いやすいエンブレムデザインを望む声が多数寄せられていました。

そこで広報室では「中央大学公式エンブレム」を制作、大学として使用できるブランドマークの幅を広げました。

このエンブレムのデザインは、1955(昭和30)年の本学創立70周年を記念して作られた学生徽章をリメイクしたものと なっています。



2009年12月からスタートした「ChuoOnline」も今年で2年目。これまで様々なニュース、本学教員による社会への提言、研究・教育内容を毎週2回以上の更新頻度で発信してきました。

3月11日の震災以降はクリック数が急増し、ついにサイト全体の月PV（ページビュー）は30万件を突破。震災直後の17日にアップされた、平野廣和教授の『平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震』が首都圏に残したことや、館野淳元教授の「福島第一原子力発電所で何が起こったか」などは、2万件以上のPVがありました。

その他にも、昨年12月以降で1万件



以上の高いPVがあったオピニオンのタイトルは、「現代社会における『言語』『記憶』『想像力』の低下をどういとおとめるか」、「ジャーナリストという名のテレビタレントが日本を滅ぼす!」、「ユーロ

は崩壊するのか」、「待ったなし！人口減少」、「人を死亡させた犯罪の公訴時効の廃止・延長について」、「都知事選、統一地方選を診る」など。タイムリーで話題性のあるテーマが多く読まれています。

オピニオン:テーマ一覧 (2010年12月～2011年5月)

アジアの壮大な夢「通貨統合」に向けて	経済学部教授	中條 誠一
エコプロダクツ2010と「エコビレッジ・ファンド」の提案	経済学部教授	緒方 俊雄
日中ビジネスの新局面	ビジネススクール教授	服部 健治
現代社会における「言語」「記憶」「想像力」の低下をどういとおとめるか	理工学部教授	加賀野井 秀一
ジャーナリストという名のテレビタレントが日本を滅ぼす!?	経済学部特任教授	末延 吉正
文化の国際法	法学部教授	西海 真樹
国民共通番号導入に向けて検討すべきことは何か	ビジネススクール教授	杉浦 宣彦
ユーロは崩壊するのか	経済学部教授	田中 素香
「人権分野でも開国を」	ロースクール教授	横田 洋三
北極海航路の可能性	理工学部准教授	鳥海 重喜
中国の新世代作家たち	文学部教授	飯塚 容
待ったなし！人口減少	経済学部教授	和田 光平
「ねじれ国会」は目前の現実 ウェストミンスター・モデルの終焉か?	ロースクール教授	安念 潤司
オバマの「変革（チェンジ）」難航の教訓	商学部准教授	平野 健
「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」が首都圏に残したこと	総合政策学部教授	平野 廣和
人を死亡させた犯罪の公訴時効の廃止・延長について	ロースクール教授	椎橋 隆幸
憲法裁判の比較法的研究	理工学部教授	植野 妙実子
今や会計が企業行動を変える	商学部教授	北村 敬子
都知事選、統一地方選を診る	経済学部教授	佐々木 信夫
観光地のライフサイクル	商学部教授	奥本 勝彦
原子力災害を自然エネルギー本格利用の出発点に	理工学部教授	國生 剛治
福島第一原子力発電所で何が起こったか	元商学部教授	館野 淳
宮内庁の「昭和天皇実録」編纂事業に対する国民の熱望	文学部教授	佐藤 元英
「安全で安心な社会の形成と危機管理のあり方」	理工学部教授	宮村 鐵夫
東電福島原発事故に思う	商学部教授	馬場 政孝

教養番組『知の回廊』

番組開始から今年で10周年

2001年度より制作を開始した教養番組『知の回廊』は、今年で10周年を迎えます。これを記念して、これまで番組を監修した教員による特別番組を現在八王子テレメディアと共同で制作中です。まもなく本格稼働の地デジ対応に伴い、映像もハイビジョンになりました。2011年度の番組出演教員ラインナップ（予定）は以下の通りです。10月スタートの新番組は80回を教え、八王子CATV局で放送された後はYouTubeや、

iTunes U（左ページ参照）でも、系統的にご覧いただけます。今後ともますます

充実した、ためになる内容の番組を制作しますので、ご期待ください。

2011年度 新番組 出演教員一覧（予定）

古賀 正義	（文学部教授 / 専門：教育社会学）
佐藤 信行	（ロースクール教授 / 専門：公法学、新領域法学、基礎法学）
黒田 絵美子	（総合政策学部教授 / 専門：美学（文学・演劇））
國生 剛治	（理工学部教授 / 専門：防災工学、地盤工学、地震工学、土質動力学、エネルギー施設工学）
藪田 雅弘	（経済学部教授 / 専門：公共政策、環境経済学、観光経済学）
高橋 善正	（硬式野球部監督 / 専門：硬式野球）

皆さまのご支援、ご協力に感謝 創立125周年記念式典行事が終了



創立125周年記念式典行事は、2009年度から2010年度にかけて実施してきましたが、出版関係を除き、成功裏のうちは無事終了、創立者の思いを将来へ繋げる契機とすることができました。これもひとえに母校中央大学への皆さまの熱

き思いによるものと存じ、あらためて、関係者一同、深く感謝申し上げます。

式典については、学会会各支部及び関係者配付用として、DVDを制作し、配付しました。この式典の様子は、中央大学のホームページからご覧いただけます。

また、記念出版企画「125ライブラリー」の刊行については、4冊を既刊し、今後、順次刊行の予定です。

好企画の作品も多々ありますので、「125ライブラリー」の刊行にどうぞ期待ください。

125ライブラリー

「125ライブラリー」は、「実地応用の素を養う」という建学の精神のもとに、本学の教職員、卒業生などが主な書き手となって、広く一般の方々に読んでいただける本を順次刊行していくことを目的としています。その第1期として4冊が完成しました。

21世紀の社会では、地球環境の破壊、社会的格差の拡大、平和や人権の問題、異文化間の相互理解の推進など、多くの課題がますます複雑なものになっています。こうした課題に応える叢智を養うために「125ライブラリー」が役立つことを願っています。

改革派詩人が見たフランス宗教戦争

アグリッパ・ドーピニエの生涯と詩作

高橋 薫 著



宗教戦争の荒波にもまれるフランス16世紀後半、文学も古典的ルネサンス様式をへて新たなバロック様式を獲得するにいたった。幼年期から晩年まで宗教戦争によって自己形成を行った詩人ドーピニエが、どのように動乱の世界をバロック詩学に昇華させたかを語る。

四六判 170頁
本体 780円(税別)
2011年3月発行

著者：高橋 薫(中央大学法学部教授)

今を生きる若者の人間的成長

都 筑 学 著



長年の心理学研究と教育活動の成果を総合して、自己と他者、人生における選択、人生の危機の三つの視点から、人生の支えとなるようなポイントを説き明かした一冊。現代を生きる悩み多き若者に対する温かいエールであり、現代を生きるヒントに満ちている。

四六判 134頁
本体 780円(税別)
2011年3月発行

著者：都筑 学(中央大学文学部教授)

発掘で探る縄文の暮らし

中央大学の考古学

小林 謙一 著



中央大学の考古学研究は、新しい研究方法であるAMS炭素14年代測定法の成果を積極的に取り入れ、謎の多い縄文時代の研究を進めている。神奈川県縄文遺跡を地元の博物館とともに発掘し、縄文ムラの姿を明らかにしていく活動等をわかりやすく紹介。

四六判 154頁
本体 780円(税別)
2011年3月発行

著者：小林 謙一(中央大学文学部准教授)

旅をして、出会い、ともに考える

大学で初めてフィールドワークをするひとのために

新原 道信 著



イタリアを主たる舞台として、社会的な国際フィールドワークの基本、ひとや土地との出会い方を紹介する。ゆっくりと、やわらかく、深く、「異郷/異教/異境」の地を「旅」することで、「見知らぬ明日」に立ち向かうための智を、仲間とともに創り出す。

四六判 234頁
本体 980円(税別)
2011年3月発行

著者：新原 道信(中央大学文学部教授)

125ライブラリーのご購入・お問い合わせ

中央大学出版部

多摩キャンパス多摩キャンパス事業課(出版部)
駿河台記念館多摩キャンパス事業課分室(B1F)
全国の書店、オンライン書店でもお求めいただけます。

電話・FAX・インターネット

TEL: 042-674-2351 FAX: 042-674-2354
出版部 Web サイト: www2.chuo-u.ac.jp/up

創立125周年記念オリジナルグッズ



ポロシャツ

創立125周年ロゴマークを高級感のある刺しゅうでマークしました。紫外線によるダメージを軽減するDRI-FIT UVです。

カラー：白・紺
サイズ：S・M・L
各 4,800円（税込）



125周年マーク入りキャンパスバッグ

ナチュラル色でコットン素材のお弁当や小物の持ち歩きにちょうど良い大きさです。125周年記念のデザインをプロジェクトコープの学生がデザインした限定商品です。

500円 250円（税込）



箸セット

模様は「雨粒」と「火花」の2種類です。箸・キャップ・袋がセットになっています。125thのデザインはプロジェクトコープ（PC）の学生たちが作成しました。

各 700円 各 300円（税込）



メープルキーホルダー

高級感あふれるメープルウッドのキーホルダーです。木目がまっすぐで肌目も細かく光沢があります。手になじむサイズ感とウッドの手触りが優しい商品です。

700円 300円（税込）

創立125周年記念オリジナルグッズ（中大生協取扱）商品のご購入・お問い合わせ

創立125周年記念オリジナルグッズ

中央大学創立125周年を記念して、各種オリジナルグッズを制作、販売しています。

記念グッズの売上げの一部は、中央大学の新しい大学づくりの資金として、創立125周年記念事業募金に充てられます。

皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

中央大学生協

（URL）www.chudai-seikyo.or.jp
（TEL&FAX）042-674-3037

創立125周年記念事業募金推進本部事務局

TEL: 042)674-2434 / FAX: 042)674-2435
E-mail: c125@tamajs.chuo-u.ac.jp

中央大学オリジナルグッズ



QUOカード

QUOカードは、コンビニエンスストア、書店、ガソリンスタンド等で金券として幅広く利用できます。大学の記念品として、贈呈用としてもいかがですか？（専用封筒または台紙付）

700円（額面500円）



CD 中央大学の歌

校歌・応援歌・惜別の歌・中大健児の歌・伊豆逍遙歌の5曲と同カラオケ5曲入り

1,000円（税込）



卓上校旗

紺地に校章白抜き、白地に赤のCマークの旗2本セット

1,000円（税込）



テレホンカード

駿河台キャンパスのオリジナルカード

800円（税込）

中央大学オリジナルグッズのご購入・お問い合わせ

多摩キャンパス事業課(出版部)

多摩キャンパス多摩キャンパス事業課（出版部）
駿河台記念館多摩キャンパス事業課分室（B1F）

電話・FAX・インターネット

TEL: 042-674-2351 FAX: 042-674-2354
出版部 Web サイト: www2.chuo-u.ac.jp/up

創立125周年「式典報告と感謝のつどい」

約1,500名が参加し、全国8会場で開催

創立125周年記念式典の報告と125周年事業に貢献いただいた学員の皆様へ感謝の意を表すこと及び学員のネットワーク形成・活性化促進を目的として、地方在住の方を対象に「式典報告と感謝のつどい」が、昨年11月から本年5月にかけて下記の全国8ブロックで開催されました。

各会場では大学から久野理事長・学員会会長並びに永井総長・学長（一部地域では副学長）から、125年を迎えた中央大学がこれから新たに飛躍していくための決意表明とこれまでの学員の方々の支援に対する感謝が述べられ

るとともに、大学競争の時代へ向けて新たな中央大学の発展のためのさらなる支援の要請がありました。また、記念演奏や、講演会、創立125周年記念式典の様子の報告と記念式典会場で行われたVR & 劇『中央大学源流、記憶そして未来へ』の様子の上映等と懇親会を実施し、理事長から各支部へ感謝状が贈られました。なお、関東ブロックにおいては、3月11日に発生した東日本大震災と福島原発事故を考慮し、懇親会を開かず大学からの感謝の言葉と各支部への感謝状の贈呈、記念写真撮影が執り行われました。



ブロック（開催地）	日時	参加者数
九州・沖縄（熊本）	11/23	250
北海道（札幌）	12/2	161
近畿（大阪）	12/11	234
中部（名古屋）	1/22	220
北陸（金沢）	2/5	114
東北（仙台）	2/27	209
中国・四国（広島）	3/5	184
関東（東京）	5/13	110
参加者総数		1,482

平成23年 全国支部長会議を開催

全国の学員会支部（221支部）の支部長が集まる「全国支部長会議」が、2011年5月13日、150名の参加を得て駿河台記念館で開催されました。

最初に久野修慈理事長・学員会会長と佐藤信行副学長の挨拶で開会、株式会社テレビ朝日代表取締役社長の早河洋氏（昭和42年卒）が「東日本大震災とテレビ報道」と題する講演を行いました。引き続き、大学・学員会からの近況報告では、辻本京朔常任理事・学員会副会長が、東日本大震災を受けて学生支援を検討していることなどの報告を行い、閉会しました。

なお、東日本大震災で被災した青森県・岩手県・宮城県・福島県・茨城県にある8つの地域支部に対し、支部長会議開会に先立ち、学員会から見舞金を贈りました。



台湾・国立中央大学に桜の樹を寄贈

学員日華友好会、経済学部学生などとともに、両大学学長が植樹式

本学と台湾の国立中央大学（桃園県中壢市）の交流協定が締結されたのを記念し、学員日華友好会の協力を得て、国立中央大学に桜の樹を寄贈しました。その記念植樹式が3月、台湾の同大学キャンパスで行われ、学員日華友好会の37

名、台湾研修中の経済学部中川洋一郎教授とゼミ学生16名など本学関係者と、台湾国立中央大学の各学部長をはじめとする教職員、学園内にある幼稚園生約50名など、多くの参加者が見守る中、両大学の学長夫妻、本学卒業生である海部俊樹元内閣総理

大臣、長田繁学員日華友好会会長が「友好の桜」を植樹、心温まる式典となりました。

式の冒頭では、蒋偉寧台湾国立中央大学校長から、「綺麗な桜を贈っていただき、大変に感謝している」との言葉が述べられ、これに対して永井総長・学長が「（日本と台湾で同じ名前の）両校の間に“双子”のような親密な関係を築き、更なる交流を期待したい」と答礼しました。

桜の植樹は、中央大学学員日華友好会（長田繁会長）が、日本と台湾との友好の架け橋として10年の長きにわたって1,000本近くの桜を台湾各地に寄贈してきた中の一つで、これまで寄贈された桜は、台湾の各地で大切に管理され、日本と台湾の間の友好の心と共に大きく育っています。



このたびの東日本大震災において、被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

仙台市中心部は、3月11日の震災後から徐々にライフラインも復旧し、



被災した沿岸部

2カ月以上が経過した5月17日現在は、ほぼ震災前の生活に戻っております。

しかし、宮城県内でも沿岸地域の市や町に限らず、内陸部においても建物の倒壊等、甚大な被害が多数発生しております。

そのような状況を踏まえ、当支部では、被災状況の確認を行うべく、当支部所属の学員とそのご家族に対し、ハガキによる

安否確認を行いました。

その結果、特に沿岸部にお住いの学員の方で、津波により重傷を負った方や、お住まいだった家屋を流された方、また、浸水により住める状態ではなく、避難所での生活を強いられている方がいらっしゃる事が判明いたしました。

この大震災からの復興には長期の時間が必要となります。学員メンバーとして、また、同じ被災地の人間として、できる範囲で復興の支援をしていきたいと考えております。是非、多くの学員の皆様も復興へのご助力をよろしく願います。

中央大学学員会への ●入会のすすめ

中央大学学員会 同窓の絆

中央大学は、卒業生・修了生を「学員(がくいん)」と呼び、学員が母校の興隆と発展に寄与するために創設したのが、同窓会組織の「中央大学学員会」です。

「中央大学学員会」に届出を行って活動している同窓会(支部)組織は卒業年次、地域、職種・ゼミ・学部など合計221(2011年5月時点)にのぼります。これらの支部は日本全国のみならず、海外でも活発に活動しています。各支部では、学員の皆さまの加入をお待ちしておりますので、ぜひお近くの支部に参加してみてください。学員会支部の一覧は、Webサイトから確認できます。

中央大学Webサイト www.chuo-u.ac.jp 卒業生の方へ 中央大学学員会 支部のページ

また、各支部についての問い合わせは学員会本部事務局までお寄せください (tel: 03-3219-6175)。

学員会では、支部を通じて学員の皆さまが交流を持つ機会を支援しています。先の東日本大震災でも多くの学員が被災しましたが、地域支部を通じて微力ながら復興支援をしています。また学員から在学生への学修支援として奨学事業を行っています。このような学員会の活動は、学員の皆さまから納入いただく維持会費(平成17年度以降に入学した学部生は4年次に授業料とともに納入いただいています)や年会費によって運営されています。学員会の活動にご理解いただき、維持会費・年会費の納入にもご協力をいただきたく、お願い申し上げます。

広報室 ●より

本年、校友会が創立100周年を迎えます。

1911(明治44)年の校友会創設時には、辞達学会、経済学会、実業講話会、英語学会、柔道部、剣道部、弓道部、野球部、庭球部、未公認部会として風発会、相撲部、法律討論会、江湖クラブの13部会があったと当時の校友会規則には記録が残っています。爾来、幾多の苦難を乗り越え、現在は7連盟、公認183部会、未公認28部会に発展しています。

さて、今号では大震災関連の記事が多くなりましたが、卒業式の予定されていた3月25日、校友会連盟会議の学生たちが学内で募金活動を行いました。4月の新入部員募集活動の時期には、自粛しつつも熱を込めて新入生を勧誘する学生の姿が見られ、大学の活気は失われていないと感じたものです。

1923(大正12)年の関東大震災で、本学は新築の図書館と増築校舎を残して焼失しました。しかし「関東大震災から立ち上がった学生達のエネルギーは将に溜まっていたものが爆発するかのように活発な行動となっていく」(中央大学辞達学会百年史)と、震災の余塵がくすぶる中で学園の再開が始まった様子が記録されています。



『中央大学校友会誌』創刊号(大正9年)

時は流れて今回の東日本大震災。学生たちの限りないエネルギーは、いまも本学の支えとなっています。